

# 東京都商工会報

題字は、山下光一前名誉会長

2008年  
1月号  
Vol.  
279

発行所：東京都商工会連合会

〒190-0012 東京都立川市曙町3-7-10 多摩中小企業振興センター内 発行人：桂 教夫  
TEL 042-525-6821 FAX 042-525-0899 <http://www.shokokai-tokyo.or.jp/>印刷所：(株)アトミ



第47回全国大会で「うちわ」を高く上げ、「頑張ろう!」、「突破しよう!」と声を上げる



島しょ地区6商工会の会長・副会長がパネリストになった19年度観光立島シンポジウム



団体の代表らで席が一杯に埋まった中小企業活力強化大会

## ないよう

- ◆ 新年のご挨拶 平成20年 年頭所感
- ◆ 19年度観光立島シンポジウムを開く
- ◆ 中小企業活力強化大会を開催
- ◆ 第47回商工会全国大会
- ◆ 第10回商工会青年部全国大会
- ◆ 第9回商工会女性部全国大会
- ◆ 第4回地域経済懇談会を開催
- ◆ 「匠 うどん2007」が開催
- ◆ 東京都中小企業制度融資「年末年始特別対策」の実施について
- ◆ 年男 抱負を語る

## 「商工会全国大会」、「中小企業活力強化大会」

▶「第47回商工会全国大会」は司会が「地域再生のために頑張ろう!」、「一丸となって商工会の危機を突破しよう」と声を上げると、会場は団扇を掲げて「頑張ろう!」、「突破しよう!」とシュプレヒコールを行い、応えました ▶「中小企業活力強化大会」は会場が各団体の代表らで一杯となるなか、主催団体の代表5人が演壇に立ち、それぞれの立場から意見発表を行いました ▶観光立島シンポジウムは6人の島しょ地区商工会の会長・副会長が現状と、今、取り組んでいることや、将来に向けての課題を互いに報告をしました。 (関係記事4面、5面)

# 新年のご挨拶



東京都商工会連合会  
会長  
桂 教夫

新年、あけましておめでとうございます。皆様には清々しい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、わが国経済は、企業部門の輸出や設備投資等において概ね好調であり、家計部門にあっても底堅く推移し、景気は緩やかに回復していると云われておりますが、企業規模や業種、また、地域によってバラツキがあり、多くの中小企業では景気回復を実感できていないというのが現状であります。

また、原油価格の高騰や、改正建築基準法の施行による申請・認可の厳格化による建築着工の遅れ、そして借入れ金利の上昇傾向など中小企業の抱える不安要因は多岐にわたっております。

このような状況の中、私も商工会を取巻く環境は、益々厳しく、昨年九月に発表されました平成十八年事業所・企業統計調査の速報においても東京都における事業所数が五年前に比べ、三万四千二百五事業所、四・七％も減少しているということであり、このことは私も商工会会員の減少にも大きな影響を与えております。

商工会連合会では、厳しい環境の中ではありますが、商工

会等との連携のもとに積極的な取組みを行っております。

商工会の中心的事業である中小企業の経営革新や創業支援も商工会等との連携により順調な実績を挙げております。当連合会に設置されている経営革新支援アドバイザーセンターは登録専門家約三百五十人を擁し、商工会議所地域も含め多摩地域及び島嶼地域の新規創業者や事業経営者の相談に応じています。

「多摩経済サミット」から提案・採択された「多摩地区での花博覧会」開催の誘致活動がスタート。2013年の花博開催に向けて誘致活動を展開中であります。

また、島嶼地域の振興策として実施しております「観光立島シンポジウム」については、当初予定であった小笠原村での開催準備を進めておりましたが開催に要する日数等の関係から万止む無く断念し、港区の「メルパルク東京」にて十月二十九日に開催。島嶼地区商工会長等をパネラーとして、「商工会長がえがく、島の未来像」をテーマに参加者約九十名による熱心なシンポジウムが開催されました。

職員の資質向上を目指した経営指導員のパワーアップ研修も二年目。今回は五名を一班として企業の経営者からのヒアリングや改善提案までを行う実践的なものとしております。是非ともこの成果を生かし地域商工業の振興に役立てられることを願っております。

商工会等の改革についても、新たな改革への取組みに着手しており、役員定数等検討委員会を設置し協議を開始したほか、商工会職員の長期休暇取得者への対策として代替職員派遣制度の導入などが挙げられます。

商工会を取巻く課題も山積しておりますが、各商工会と商工会連合会とが一体となった取組みにより地域商工業者の要請にこたえていく必要があります。

ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

本年が、皆様方にとって良い年でありますようご祈念申し上げます。私の年頭のご挨拶といたします。

明けまして  
おめでとございます

平成二十年元旦

会長  
桂 教夫

理事  
井上敏夫  
(日野市)

副会長  
平畑文興  
(昭島市)

理事  
平塚久敏  
(清瀬)

副会長  
神石 實  
(小平)

理事  
村越政雄  
(小金井市)

副会長  
栗原昭一  
(瑞穂町)

理事  
宮川一三  
(西東京)

専務理事

坂爪正二

理事  
栗山 昇  
(狛江市)

理事  
深沢精一  
(三鷹)

理事  
原島芳一  
(調布市)

理事  
矢野 守  
(国分寺市)

理事  
町田成司  
(福生市)

# 平成二十年 年頭所感



東京都知事  
**石原 慎太郎**

新年明けましておめでとうございます。  
新しい年が、皆様にとって健やかで希望に満ちた一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

わが国は今、経済活動が本来の動きを取り戻しつつあるものの、相変わらず国政の停滞が続いております。未だかつて経験したことのない急激な少子高齢化、地球環境の悪化などへの対応は焦眉の急であるにも拘らず国の動きは鈍く、分権改革・地方税財政制度改革も遅々として進んでおりません。

現代は、大都市の活力が国の命運を左右する「都市の時代」といわれています。東京を核とする首都圏には日本の人口の四分の一が集中し、政治・経済・文化など様々な都市機能が高度に集積しています。そして都内には、世界に誇れる最先端技術を生み出す優秀な中小企業が数多く存在し、日本の産業を支えています。東京が率先して行動を起こし、持てる地域の力を存分に発揮すれば、日本を変え、さらには世界を動かすことも十分に可能であると思います。

私は知事就任以来、東京の再生、そして東京から日本を変えるため、様々な政策を国に先駆け、重層的・複合的に講じてまいりました。

一昨年末、東京の近未来図である「十年後の東京」を策定し、緑あふれ、美しく、安心・安全な都市へと一層の成熟を遂げる姿を描きました。この実現に向け、既に、臨海部での「海の森」づくりや街路樹の増、CO2排出削減対策に着手しております。

昨年末には、取り組みを加速するため、今後三か年の実行プログラムを発表しました。東京の最大の弱点である渋滞を解消する道路整備、少子高齢社会に対応した保育サービスや認知症高齢者グループホーム等の充実、元氣な子供たちを育てる校庭の芝生化、いつか必ず来る大地震に備えた建物の耐震化など、都民生活を支える幅広いテーマに積極的に取り組んでまいります。

また、現在、東京都は二〇一六年オリンピックの東京開催を目指し、「人を育て、緑を守り、都市を躍動させるオリンピック」この開催理念のもと招致活動を展開しております。この日本で練り広げられるオリンピックの感動を通じて子供たちに夢や希望を贈りたいと思います。そして、先進技術を駆使し、大会の舞台となる東京を世界一環境に優しい都市へと進化させて、地球環境の改善への道筋をも示してまいります。

十年先を見据え、ハードとソフトの両面で施策を徹底して推進し、その成果を東京の魅力と都民福祉のさらなる向上に結実させていく決意ですので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

理事  
才神 芳美  
(東久留米市)

理事  
向笠 幸雄  
(羽村市)

理事  
山下 三郎  
(東村山市)

理事  
前田 萬治郎  
(新島村)

理事  
鶴田 和男  
(あきる野)

理事  
小島 昌夫  
(都青連)

理事  
加藤 政治  
(東大和市)

理事  
廣瀬 可世子  
(都女連)

理事  
松田 昭男  
(武蔵村山市)

監事  
原田 貞男  
(日の出町)

理事  
浅沼 孝彦  
(八丈町)

監事  
浅沼 基  
(三宅村)

理事  
番場 正夫  
(稲城市)

監事  
松江 仁  
(神津島村)



## 東京・芝公園で19年度観光立島シンポジウムを開く 「身近な島」を、足元から品質を高めていくことが第一歩

### 島しょ地区会長、副会長が取り組みを紹介

当連合会は十月二十九日、東京・芝公園のメルパルク東京で「平成十九年度観光立島シンポジウム」を開きました。島の人口密度日本一を誇る愛知県・日間賀島の中山勝比古・日間賀観光ホテル代表取締役が「島の立地及び資源を活かした観光開発」をテーマに基調講演。続いて行ったパネルディスカッションでは島を巡る形で実施してきたシンポジウムが小笠原を除いて一巡したことから、今回は島しょ地区の商工会から会長、

副会長がパネリストで登壇、①各島開催での感想②その後の取り組み③島の未来像を発表。コーディネーターの仲田成徳日本離島センター調査研究部長が「身近なところ、足元から（観光事業の）品質を高めていくことが第一歩」とまとめました。シンポジウムは平畑文興副会長の開会の辞で始め、桂教夫会長が主催者挨拶。桂会長は「先頭に立つ人がどれだけ夢中になれるかだ」と

「シンポジウムを通じて色々な人と意見交換した結論だ」と話しました。来賓挨拶で山巻毅東京都産業労働局商工部地域産業振興課長は「豊富な環境資源が都会人の安らぎを与える空間として東京に用意されていることを誇りに思っている」と述べました。シンポではこうした挨拶の後、愛知県・知多半島南端の離島である日間賀島で「観る観光」から「参加する観光」に挑戦、多くの観光客の心を掴むことに成功し、「観光カリスマ」になっている中山勝比古・日間賀観光ホテル代表取締役が基調講演、参加する観光に何故、着眼をし、

それをどう推進し、今がどうなっているかを紹介するとともに、体験からの教訓などを話しました。パネルディスカッションには次の七人の方がパネリストとして登壇しました。▽大島町▽高田元喜副会長▽八丈町▽浅沼孝彦会長▽三宅村▽浅沼基会長▽新島村▽前田邦弘副会長▽神津島村▽松江仁会長▽小笠原村▽安藤光一会長▽中山勝比古日間賀観光ホテル代表取締役

当連合会、東京商工会議所など中小企業六団体は十一月二十六日、東京・丸の内東京商工会議所で「中小企業活力強化大会」を開きました。

編成を前に、自民党、民主党、公明党の国会議員、都議会議員らの来賓に中小企業の現状を訴えるとともに、中小・小規模企業予算の飛躍的

挨拶。続いて各団体の代表五人が次々と演壇に立ち、意見の発表を行いました。当連合会からは栗原昭一副会長

### 栗原昭一副会長が意見発表

## 中小・小規模企業予算の飛躍的拡充を要望

### 中小企業活力強化大会



同大会には 栗原昭一副会長

連合会からは 桂教夫・当連合会会長ら中小企業団体の代表五百二十六人が参加。国や都の二

十年度予算 拡充、施策の充実などを強く要望しました。大会では岡村正・東京商工会議所会頭がまず、「中小企業にとって景気回復の実感はなく、先行きも不透明と感じている状況」などと主催者

がトップで意見発表。栗原副会長は「中小企業者が減少することは、地域経済の衰退のみならず、受け継がれてきた伝統や文化を育んできた地域コミュニティの崩壊にも繋がる」とするとともに、「従来の概念にと

- 意見発表の後、大会では次の四項目の決議を採択しました。
- 一、包括的な事業承継税制の確立
  - 二、産業人材の確保・育成のための施策の推進
  - 三、中小商業の活性化・コミュニティ再生に向けた対策の推進
  - 四、不公正な取引等への厳正な対処と公正競争の確保

(1面参照)

**格差是正の施策を  
機動的に展開を!!  
8年ぶりに首相も出席  
第47回商工会全国大会**

二十年度予算編成、税制改正を前に市長村商工会、都道府県商工会連合会、全国商工会連合会は十一月二十九日、東京・神南のNHKホールで「第47回商工会全国大会」を開きました。大会には二千七十六の全国の商工会から会長ら三千を超え、参加者が結集。参加者全員が「商工会危機突破」の鉢巻をし、団扇を掲げて、商工会組織に対する更なる支援など別項の五項目を決議。政府、議会関係者らに強く実現を迫りました。

今大会は一部の地方自治体が商工会と商工会議所を統合する動きを強めていることや、地域が疲弊するなかで商工会も存亡の危機に直面しているため、強い危機意識から「地域再生・商工会危機突破

**全国から3千人が結集して  
仙台で「第10回全国大会」を開く**  
全青連など

全国商工会青年部連合会、宮城県商工会青年部連合会は十一月十四、十五の両日、仙台市内の仙台サンプラザで「第10回商工会青年部全国大

- 決起大会」と位置付け、臨みました。大会には平成十一年の第39回大会に小淵恵三首相が参加して以来の首相の出席となる、福田康夫首相の出席があり、福田首相は、「地域経済はまだまだ厳しいというのが皆さんの実感ではないか。全国四百三十万社の中小企業は日本の底力、国際競争力を支える屋台骨」などと祝辞を述べました。
- 五項目の決議は次の通りです。
- 一、商工会組織に対する更なる支援、地域小規模事業者の支援措置の強化
  - 二、地域経済再生に向けた地域間格差の是正とまちづくりへの支援
  - 三、小規模企業支援事業・生産性向上対策の確実な執行
  - 四、経済成長力を支える中小・小規模企業政策の強化・拡充
  - 五、商工会組織支援機能強化・会員サービス強化
- (1面参照)

会」(写真)を開きました。大会には「宮城に集え 強者達 そして見せよう 伊達な 武「商」魂」をスローガンに全国から三千人、東京都商工会青年部連合会からは六十八人が参加。

一日目は主張発表大会、若き舞踏



家と若手太鼓・津軽三味線奏者夢のコラボレーション、交流懇親会を、二日目は第一部全国青年部長研修会、第二部全国青年部長会議、大会宣言の採択などを行いました。来賓には中野正志経済産業省副大臣、西村明宏内閣府大臣政務官、伊藤克彦宮城県副知事らに駆けつけていただきました。

メイン事業の主張発表大会では「人から人へ」そして地域から世界へ」の題で発表した近畿ブロック代表で、京都府野田川町商工会青年部の堀尾知弘副部長が最優秀賞に輝きました。

一部の青年部長研修会にはMLBシアトルマリナーズの元投手・佐々木主浩氏が登壇。「海を渡った大魔人」佐々木主浩の挑戦」の基調講演に耳を傾けました。

**全国から2千人を超える部員が参加  
広島で「第9回商工会女性部  
全国大会」を開く**

全国商工会女性部連合会、広島県商工会女性部連合会は十月二十四、二十五の両日、広島市内のウエルシティ広島で「第九回商工会女性部全国大会」



(写真)を開きました。東京都商工会女性部連合会からは二十六人が、全国からは二千を超え、部員が参加。「地域のかけ橋、笑顔でつなぐ商工会女性部」をスローガンに一日目が大会セレモニー、主張発表大会、基調講演、表彰式、交流会、二日目が移動分科会と多彩な催しを行いました。

式典では福水健文中小企業庁長官(代理)長尾尚人・経営支援部長、藤田雄山広島県知事らを来賓に迎え、挨拶をいただきました。メイン事業の主張発表大会では各ブロックからの代表六人が競い合った結果、「見て下さい 発祥の地 花笠踊り・おもてなしの心」のタイトルで発表を行った東北・北海道ブロック代表の柴崎玲子氏が最優秀賞に輝きました。

基調講演では経営コンサルタントの佐藤治彦氏が演壇に立ち、「世界経済からみた日本経済。日本経済からみた地域経済」について解説をしました。

女性部員増強運動表彰では強化期間実績表彰で調布市商工会女性部が第三位を獲得、表彰を受けました。

**「地域の災害防止と  
ネットワークづくり」をテーマに  
第4回地域経済懇談会を開催  
西東京商工会**

西東京商工会は十月十二日、市内のコー田無で「地域の災害防止とネットワークづくり」をテーマに「第四回地域経済懇談会」を開きました。懇談会には坂口光治市長ら市内の行政・教育・経済界、奉仕団体等の有識者二十九人が出席。それぞれの立場から災害防止にどのような取り組みをし、被害を小さくしていくには何が欠け、互いにどのようなことで協力をしていけるかについて意見交換をし、最後に「地域の防災ネットワーク構築に協力・協働をする」とうたった共同宣言を採択しました。



宮川会長が挨拶をする地域経済懇談会  
宮川会長が挨拶をする地域経済懇談会

懇談会ではまず、宮川一三会長が懇談会の狙い、これまでの実績を紹介するとともに、出席への感謝を述べ、主催者挨拶。続いて西東京消防署の須藤國夫署長が「西東京地域の災害防止対策について」をテーマに事業所の地

震に対する備え、地震が発生してから何をしなければならぬかなどについて基調講演を行いました。

懇談会はこの基調講演を受けて災害防止とネットワークづくりについて出席者がそれぞれの取り組みを紹介、さらに、意見を交わしました。取り組みの紹介では坂口市長、坂爪正二・当連合会専務理事、工業高校校長、ガス会社支店長、電力会社支店課長、教育長、郵便局長、大河内一紀商業部会長、金融機関支店長らが発言を行いました。

この中で坂爪専務理事は「市と商工会が両輪となって事業を営んでいることが大事」と述べ、三鷹と昭島市の両商工会の取り組みを紹介しました。

**「匠うどん2007」が開催  
うどん販売に長蛇の列  
東村山市商工会**



「匠うどん2007」が開催  
「秘伝」も語られた「匠うどん2007」

東村山市商工会、同青年部は十一月十一日、市内の天王森公園で東村山サミット「匠うどん2007」を開催しました。これは行政や、市内の主要機関トップが集まって市内の産業活性化や観光振興について意見交換を行うサミットが今年で二十

四十周年になることから、これらを記念していつもとは趣向を変えて「武蔵野うどん」という、食文化を全国に発信しようという企画しました。当日は市長、国会議員、都議会議員ら市を代表する関係者が参加。山下三郎会長は「新しい時代に向かって新しい力を結集して東村山市の食文化をさらに高めていきたい」と主催者挨拶。基調講演、パネルディスカッション、うどん販売、地域物産販売と多彩な行事を繰り広げました。基調講演ではフードジャーナリストトのはんつ遠藤氏が「うどん文化と地域特性」と題してうどんの歴史や全国のうどんを紹介。パネルディスカッションでは「小島屋」、「とき」、「ますや」の武蔵野うどん三店に、加須うどん（埼玉県）、信州の夢うどん（長野県）を加えた五店でそれぞれのうどんの特徴などを紹介しました。



桂会長も産業交流展で鉢入れ  
桂会長も産業交流展で鉢入れ

五店が出店。お店の前に二十、三十メートルの行列が出来、終了時間前に全ての店舗で完売し、成功裡に終了しました。

「第10回産業交流展」が開催  
過去最高の764企業・団体が出品  
東京都、当連合会などは十月二十五、二十六の両日、東京・有明の東京ビッグサイトで「第10回産業交流展2007」を開催しました。今回は八百八十六小間に過去最高の七百六十四企業・団体が出展、自慢の技術、製品を披露しました。初日の二十五日はアトリウム内メインステージで開会式を開き、山口一久東京都副知事が主催者を代表して挨拶、同展の規模が年々、拡大「中小企業による国内最大級の総合トレードショーへと成長を遂げた」と述べました。開会式には当連合会から桂教夫会長が出席。テープに山口副知事らとともに鉢を入れました。多摩地域からは東京都から経営革新計画の承認を取得し、バイオディーゼル燃料の製造・販売などに力を入れている、日野市の加藤商会などが出品、事業のPRに力を入れていました。

**「第8回ビジネスフェア」が開催  
211の企業・団体・支援機関が出席**

当連合会、多摩地域商工会などが後援をした首都圏産業活性化協会（TAMA協会）など主催、西武信用金庫など共催の「第8回ビジネスフェア from TAMA」が十一月六日、東京・西新宿の新宿NSビルで「あらたな出会いでさらなる飛躍！」をテーマに開かれ、二百十一の企業・団体・支援機関が出席、情報交換や、商談を繰り広げました。



藤田関東経済産業局長らが

「多摩は希に見る発展し得る地域」として「多摩に中小企業がきていただきたい」と述べました。

**東京都中小企業制度融資  
「年末年始特別対策」の実施について**

東京都では、事業者様の年末・年始の資金需要にお応えするため、2つの融資メニューについて、以下のとおり拡充を行いました。  
20年3月末までの期間限定です。ぜひご利用ください。

- (1) 資金状況改善融資（つなぎ）の融資限度額を引き上げ  
・融資限度額 500万円⇒  
**700万円に引き上げ**
- (2) 経営支援融資（経営一般）の融資対象要件（売上要件）を緩和  
・売上要件「最近3か月の売上が前年同期比5%以上減少又は減少見込」  
↓  
「前年同期比で減少又は減少見込み」に緩和
- (3) 特別対策の期間  
平成19年11月1日から  
平成20年3月31日申込分

【お問い合わせ先】  
産業労働局金融部金融課  
電話 03-5320-4877

**当連合会副会長  
門井豊秋氏が逝去**



当連合会の副会長で、大島町商工会長の門井豊秋氏が十一月三日、ご逝去されました。享年五十七歳でした。

門井氏は平成十三年に大島町商工会長、同年、当連合会理事になるとともに、平成十八年には副会長に就任。また、平成四年からは八年前、大島観光協会副会長を務められ、商工業・地域振興、観光振興に尽力されました。生前のご功績を称え、心から哀悼の意を表します。

安全・安心への取り組みが各地の商工会で活発になるなか、日野市商工会の井上敏夫会長が「防犯パトロール音頭」を  
作詞・作曲をし、テープにして日本伝統

**防犯パトロール音頭でチャレンジ  
日野市商工会の井上敏夫会長が作詞・作曲、テープに**



音頭の楽譜とテープ

文化振興財団から登壇させました。井上会長は趣味からこれまでにも作詞・作曲をして

プロが歌うCDを出しており、日野防犯協会会長として日頃、先頭に立って防犯パトロールをしていることから、今度はボランティアで防犯にチャレンジしたものです。  
子どもを守り、年寄りを助け、さらに、家庭での安全の備え、親子・友達との会話の大切さと呼び掛ける内容で、プロの民謡歌手、鈴木正夫さんが歌っています。B面はカラオケになっており、演奏を行うのはタイトルにはピッタリの警視庁音楽隊です。

プロによる振り付けも付いています。井上会長は「軽快なメロデー、それと歌詞と内容から、どこの市町村でも、さらに世代を超えて親しんでもらえるはず」とし、「自治会、地域のイベントで使って防犯意識の高揚に役立ててもらえれば」と熱意を込めて話しています。  
希望者は日野防犯協会・警視庁日野警察署（042・583・0110）へ。

**実現しよう!!**

誘致を実現するために地元が一丸となって機運を盛り上げましょう。

**2013東京多摩国際園芸博覧会誘致**

**人事交流**

【退職】（10月31日）あきる野一般職員北野直樹

